

令和 7 年度 多機能型事業所童里夢 事業報告書

<生活介護・就労継続支援 B 型>

《令和 7 年度の経過と評価》

安心・安全な環境づくり をテーマに、利用者支援と生産活動の両立、 職員が働きやすい職場づくりの推進を重点に取り組んだ一年であった。

上半期には、外部研修受入の際に「利用者、職場が元気で明るい」 との評価を受け、日々の取り組みが確かな成果として現れた。

一方で、職員の退職や配置転換、利用者の高齢化・重度化、 外出支援時の事故発生など、改善すべき課題も明確となった。活動日において利用者乗せ忘れ事故が発生したことを踏まえ、事業所全体で再発防止策の徹底、安全確認体制や初期対応に課題があることが明らかとなった。本件については事故として重く受け止め、氏名読み上げによる点呼、ダブルチェック体制、移動前最終確認の徹底を再発防止策として確認して取り組むこととした。業務の見直し、支援体制の強化に取り組み、安定した運営基盤の構築を進めた。

兼務職員が多い体制の中で、情報共有不足や業務の属人化が課題として浮き彫りとなった。連絡事項の確認がされない状況が一部に固定化している、と指摘されており、チームス・LINE の活用、会議体で班会議、班長会議、支援会議、職員会議を継続して実施し、情報共有や課題整理の改善を進めた。

また、離職者が出たことで職員配置の再調整が必要となり、 業務の平準化・マニュアル化を進め、負担の偏りを軽減できるように努めた。新卒者の入職前にアルバイトとして継続して業務、支援に関わっていただきスムーズに入職出来るよう準備を進めてきた。

地域との関わりでは 8 月に夏祭（太鼓クラブ披露・販売）、11 月には校区文化祭（太鼓クラブ、ダンスクラブ披露・絵画クラブ作品展示・茶道クラブ・販売）と参加、協力することができた。法人全体の取り組みとしては、石巻山のゴミ拾いを委員会中心に進めていただき継続して取り組めることができた。また、地元小学校とのコラボイベントで小学校に出向き、利用者と小学校 3 年生が共同で絵を描くイベントを初めて開催することができ、2 月にはお礼のお楽しみ会に声をかけていただき関係づくりに繋がった。

事業運営では定員割れしていることもあり、見学、実習の受け入れを適宜行ってきた。年度内の利用に結びつかなかったが 8 年度 1 名の新規利用、また 9 年度新規利用希望者 2 名と結び付けることができた。利用者の動静では、4 月からくすのき特別支援学校卒 1 名の生活介護利用開始、生活介護から 1 名の退所者、B 型から 1 名生活介護に異動、その後 1 名生活介護から B 型へ異動と生活介護では 28 名在籍となる。

特別支援学校と連絡を取り生産活動で活躍できる方に来ていただけるよう引き続き定員に達するようにしていく。

【ばくばくぱん】

職員 2 名体制で製造をして、配達等他班職員の協力を得ることができた。しかし、現状のかたち、パン製造を今までのように継続していくことが難しい状態でもあり、パンセットの終了から食パン中心の定期購入セットを開始した。また、イベント等外部販売に積極的に参加して、アイセロ販売ではれすとらん班、奏楽と協力して月 1 回販売活動に参加できた。

年末には、機材の故障からパン製造の継続が良いのか、現状の設備機器を活かせるものとして天然酵母ぱん以外の製造する物の短期間の中で検討し有機グラノーラへ事業転換することを決めた。顧客には丁寧に説明をしてパン製造と並行しながら有機グラノーラの商品化に向けて検討に入った。8 年度 7 月から本格販売に向け準備が思うように進まず進捗確認をして商品化に向けて取り組んでいる。

職員 2 名体制で生活介護事業の 3 班の中で利益を上げている自負があり製造に追われ丁寧な支援とまでいかなかったが利用者の方々は自分の決まった作業をこなしてくれていた。事業変更をしていくことで、商品、利用者作業と決めていくことが多いが引き続き落ち着いて作業ができる環境を整えていく。

【れすとらん班】

店舗運営では物価、原材料高騰を意識しながら材料費を抑えた運営に努めた。昨年度の大型弁当受注がなかった影響もあり売上は減少したが、弁当販売や外部販売、イベント販売等に取り組み売上向上に努めた。アイセロ販売、外部イベント等の販売物を検討して他班、奏楽と協力して販売活動を継続し売上向上に努めた。

利用者支援では、丁寧な説明をして、時には作業の細分化をして役割を意識してやりがいをもって作業に取り組むよう行った。時に不安定になった利用者、またその周辺にいる利用者に対して安全を確保しながら落ち着けるよう支援していたが突発的な時には対応しきれないこともあり作業をしながらも広い視野、利用者の状態把握等対応していけるようにしていくことが求められる。

給食提供についてはグループホーム、すたあと短期入所時への夕食提供を継続、メニューの相談等考慮し栄養バランスを考えた上で取り組むことができた。

【雑貨班】

エサ用コオロギの販売では赤塚山公園への定期的取引の継続、また YouTube や SNS の活用により少しずつ個人客への販売が伸びている。コオロギ繁殖作業が一時うまくいかない時期があり繁殖工程の見直し、マニュアル化の確認をして改善を図ることができた。委託作業のニンジンの袋詰めでは利用者への作業分担、支援を検討して安定して取り組むことができた。農作業では果樹に加え、原木しいたけを準備してきたが収穫、販売とはいかなかったが少しづつ成果を見せている。8 年度収穫できるよう再度準備することとなった。畑ではニンニク、玉ねぎ等収穫できることがわかり給食で利用できる作物を栽培して低価格で卸し協力していくことで収益に繋げていけることで進めていく。

生産活動以外で健康延伸活動を積極的に行い、他班利用者の受け入れて健康維持、体重の減少となるよう石巻山への体力づくりを継続して行うことができた。

【Pan-Kan 製造センター】

昨年度、名古屋ライトハウスからの協力要請にこたえてきたが今年度商社からの注文だけに頼ったことで売り上げは激減してしまった。備蓄以外での商談もあったが先方の都合もあり商品化できずに破綻してしまった。営業活動を行なったことがないため商社からの注文以外で営業活動をしなければ売り上げが低迷し安定した運営ができなくなる。来年度に向けて fax 営業、各所への fax を流して電話での確認をして手ごたえを読んでいく。また管理営業では「売る営業」ではなく備蓄入替提案型の営業へ転換し単発ではなく定期購入・継続契約の構築を進める。他にも営業努力をして計画を立て進めていくことを確認して事業安定に向けて取り組んでいく。

商社からの受注に関しても、入札案件では競合他社の参入増加、防災需要の拡大による入札競争の激化により、従来より入札が取りにくい状況となっています。一定程度「薄利多売」を前提に商社へ依頼をして受注確保を行っていく。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化（運営・管理体制・サービス管理）

日中活動事業所の童里夢、奏楽での業務の連携、確認を行う事で童里夢運営の課題は多いが、協調体制をとることができた。兼務職員が多い体制で、情報共有不足や業務の属人化が課題として浮き彫りとなった。連絡事項の確認がされない状況が一部に固定化しているということもあり、チームス、LINE の活用、会議体の見直しなど情報共有の改善を進めた。また、離職者が出たことで職員配置の再調整が必要となり、業務の平準化・マニュアル化を進めるが負担の偏りを軽減できたとはまでは言えなかった。

設備管理について確認を行い、経年劣化による設備故障への対応を進めた。2 階厨房では製氷機、冷凍庫、1 階では洗濯乾燥機、スパイラルミキサーの故障があり計画的な設備更新の必要性が明確となった。

2. 利用者サービスの拡充

生産活動を中心としながら、利用者一人ひとりに応じた役割設定や作業の細分化を行い、達成感ややりがい、自信につながる支援を行った。

行事では地域と交流のある夏まつり、石巻校区文化祭に参加することができ、事業所では、活動日、童里夢一泊旅行を企画、準備、実施することができた。忘年会については地元石巻山ナツメ別館にて 2 回目の開催となり落ち着いて楽しむ事ができていた。利用者自治会を通し活動内容等についてニーズを引き出し計画、実施していきたい。

3. 人材育成/支援力の向上

職員体制や現場負担の影響もあり、十分な外部研修参加には至らなかったが、新人職員には権利擁護、虐待防止等の研修参加を進めた。福祉専門職として役割、責任と理解を自覚し利用者支援において意識を養い高められるよう事業所内支援会議の中で研修を行うことができた。不適切支援防止についても、利用者対応や職員言動について確認を行い、支援の質向上に努めた。法人全体研修では外部講師を招いての研修や発表する形と工夫しながら取り組まれ、職員によっては振り返る事ができた内容、新しい職員には新鮮な内容という形で外部研修とは違いリラックスして研修に参加できていた。

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性	2	8	5	1	-	-	-	16	
女性	2	3	7	0	-	-	-	12	
合計	4	11	12	1				28	4.6

就労継続支援 B 型

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性			5	3		0	0	8	
女性			1	1		1	1	3	
合計			6	4		1	1	12	3.4

【年齢別人数】

生活介護

性別	20 歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	60—	合 計
男性	1	0	3	5	2	4	1	16
女性	0	1	1	2	6	2		12
合計	1	1	4	7	8	6	1	28

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	39 歳 5 ヶ月	19 歳 0 ヶ月	68 歳 11 ヶ月
女性	40 歳 10 ヶ月	21 歳 7 ヶ月	53 歳 10 ヶ月

就労継続支援 B 型

性別	20 歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合 計
男性	0	0	0	4	3	0	0	7
女性	0	1	0	2	1	0	0	4
合計	0	1	0	6	4	0	0	11

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	38 歳 8 カ月	33 歳 1 ヶ月	49 歳 10 ヶ月
女性	31 歳 9 ヶ月	22 歳 9 ヶ月	43 歳 5 ヶ月

【生産活動 売上金額】

生活介護

月	ばくばくぱん	れすとらん くう	雑貨班
4	295,755	382,313	178,741
5	293,483	286,010	162,640
6	275,801	291,660	103,268
7	311,634	415,820	146,485
8	313,087	372,950	121,191
9	277,531	228,700	125,951
10	617,223	637,130	160,998
11	457,906	344,490	127,506
12	769,783	296,400	94,039
1	297,961	303,250	83,214
2	280,436	270,650	73,929
3	324,317	405,500	68,289
計	4,514,917	4,234,873	1,446,251

就労継続 B 型 42,741,734

月	Pan-Kan 製造センター
4	2,543,836
5	1,114,062
6	1,401,440
7	1,793,949
8	1,825,048
9	3,472,506
10	2,436,710
11	1,039,739
12	3,342,139
1	1,286,589
2	5,758,981
3	2,187,140
計	28,202,139

【原材料費率＝原材料費／売上金】

	ばくばくぱん	れすとらん くう	雑貨班	Pan-Kan 製造センター
売上	4,514,917	4,234,873	1,446,251	28,202,139
原材料	1,161,636	1,773,402	97,246	14,619,297
比率	25.7%	41.8%	6.7%	51.8%